

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075800310
法人名	社会福祉法人 内野会
事業所名	グループホーム 鴨生の里
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市鴨生693-1 (電話) 0948-42-2790

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月22日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年9月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.25人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 1日:200円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,000円		

(4) 利用者の概要(9月2日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金丸病院 / 西野病院 / 松岡病院 / 稲築病院 / 西川歯科 / 平野歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関を一步入ると高い天井と広々したリビングがあり、窓も広く自然な光が差し込み開放的な造りになっており、家庭的な雰囲気に満ちている。駐車場の横の広い畑では、南瓜・茄子・さつまいもなど季節の野菜をつくり、秋の収穫時期には入居者と職員が収穫作業を楽しみにしている。同法人には老健施設もあり、地域の交流と共に外部の方々との温かい交流ができるように支援している。理念は「住み慣れた地域との寄り添い、人と人との心の寄り添いを大切に生き甲斐とやすらぎのある生活を支援します」を掲げ、地域密着型サービスの役割を認識し、地域との連携を高め、家庭的な環境のもと入居者が心穏やかに暮らせるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、市町村との連携、同業者との交流を通じたサービスの向上、災害対策への取り組みが挙げられている。個々の評価を検討し改善に向け運営推進会議にも報告している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善点をホーム長と職員が協力して取り組み、改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されており、問題点や今後の課題について話し合いを行っている。会議には、入居者・家族・かかりつけ医などが参加している。出された要望や意見は運営やサービスなどに反映している。運営推進会議は、家族の意見や意向を言っていたり活かす機会としてとらえ活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日常的に入居者・家族が希望や意見を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、近隣にある同法人の運営する老健の施設長が家族との関係づくりのサポートを行い、何でも言っていたり関係づくりに努めている。運営推進会議は、家族が自由な意見を言っていたり活かす機会として活かせるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	正門前に花壇を設置し、季節の花などを植え、玄関先にはベンチが置かれ立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。グループホームも民家風で地域の中に溶け込んでいる。地域の方とは、日常的な付き合いができるように努めている。また、2ヶ月おきに町内の公民館で開催されている町内主催のいきいきサロンに、毎回数名ずつ参加させてもらうなど、地域住民としての交流を図っている。また、地域住民にホームの行事に参加していただけるように案内を出したり、ボランティアの受け入れや地元の歌手との交流など地域で暮らすことを支える取り組みを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指して「住み慣れた地域との寄り添い、人と人の心の寄り添いを大切に生きがいとやすらぎのある生活を支援します」を柱に職員と入居者・家族と共に地域の中でその人らしく暮らし続ける支援を実践している。事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は、ミーティング時に職員が理念を理解できるように説明し、理念の共有化を図り、職員一人ひとりの意識を高め日々のケアやサービス提供の中で実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月おきに町内の公民館で開かれている町内会主催のいきいきサロンに、毎回数名ずつ参加させてもらうなど、地域住民としての交流を図っている。また、地域住民にホームの行事に参加していただけるように案内を出したり、ボランティアの受け入れや地元の歌手との交流など地域で暮らすことを支える取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者・職員全員がそれぞれの立場で作成し取り組んでいる。前回の外部評価を通じてグループホームをより良くしていこうという視点に立ち改善に向けて自己研鑽を推進している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に開かれたグループホームを目指し、地域の方や家族・市職員などの参加をいただき、2ヶ月に1回定期的開催し、問題点や今後の課題について話し合っている。外部評価の報告も行われ、会議で出された意見は、日々のサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所へ行く用事の際は、窓口に入居者も一緒にお連れするようにしている。また、相談に行き現場の実態をつかんでもらい担当者に助言を求め問題解決を図るよう積極的に市へ相談し連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者には制度利用者はいないが、今年、県主催の無料講習会を受講し、必要時にはいつでも相談を受け支援できるように資料を保管している。職員にもスタッフミーティングを通じて権利擁護の理解を高めていきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況・行事予定は、毎月定期的に「ブロッコリ通信」と共に報告している。個々の健康状態などは、密に家族へ連絡している。家族の来訪時には随時生活状況を報告し、出納帳のサインをいただいている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望や意見を気軽に言える雰囲気づくりに努め、近隣にある同一法人の運営する老健の施設長などにも顔をつなぎ、気軽に話ができる関係を築いている。運営推進会議を通して、家族が自由な意見を出していただけるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一人の職員の異動や離職が、入居者に大きなダメージを与える事がないように職員全員が入居者の声に耳を傾け、心を開いて話していただけるような関係づくりに取り組んでおり、異動や離職のダメージを防ぐ取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用は、性別・年齢制限はない。職員の介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を積極的に後押し、自己実現できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重したケアが行えるよう、スタッフミーティングなどでプライドを傷つけるような態度・言葉かけを確認し、接遇面や関わり方の面で問題がないかを話し合っている。市や県などが主催する人権研修の情報収集を行い、参加できるように取り組みたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修を積極的に受講し、職員全員で共有するための勉強会やスタッフミーティングを通して伝達研修を行い、職員のスキルアップを図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人本部と合同会議を開催し、情報公開や技術のレベルアップのための意見交換をしている。また、市の社会福祉協議会主催の社会福祉施設連絡会にも毎年出席している。同業種であるグループホームとの情報交換により、地域向けの認知症の理解を育むことができ、サービスの質の向上を図ることができると考えられ、同業種のネットワークを構築していくことが求められる。		同業種のネットワーク構築を目指し情報交換を行うと共に、ネットワークにより地域への認知症の理解を高めるなど、同業種による連携を高める取り組みが求められる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、本人と家族に何度か見学に来ていただき、自宅へ訪問するなど、少しでもなじみの関係の中で、入居していただけるように努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、一方的な介護にならないように、入居者に日常的な役割を担っていただき、職員は入居者から心配されたり、励まされたりと共に支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人がどのように暮らしていく事を望んでいるかを職員は、入居者の思いを十分に把握し、個別ケアの充実に日々努めている。また、入居者の行動や表情から思いを汲み取り支援している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人の希望や家族などの意向にそうように多方面からの視点で介護計画の作成に努めている。必要な時には、同法人内老健の支援相談員・OT・PT・栄養士に相談し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な介護計画の見直しを行っている。入居者の状態に変化が生じた際には、随時介護計画の見直し・変更を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人の老健施設が近郊にあり、施設長のサポートをはじめ、専門職のサポートが整っている。入居者は老健施設の企画に参加したり楽しみごとが多く、交流・ふれあいの機会が充実している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医と連携病院が近隣にあり、入居者の状態に合わせて受診している。また、毎週水曜日に協力医療機関の医師の往診も受けており、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	鴨生の里における重度化した場合の指針を作成し、家族にも説明を行い話し合っている。現在のところ該当するケースには至っていないが、管理者・職員間では話し合いを行い対応に向けて取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者のプライバシーを守るために職員全員が守秘義務に努めている。また、個人記録は、目につきにくいところに保管し情報の取り扱いには十分配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	地域との交流を大切にいきいきサロンの参加をはじめ、可能な限り入居者一人ひとりが希望する自由な過ごし方ができるように安全の確保をベースに支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	季節の野菜を取り入れた献立が多く取り入れられ、季節感を感じていただくように献立の工夫がある。入居者の能力に応じて可能な入居者には、職員と食事の準備・下膳・洗い物などをお手伝いしていただき、食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者のその日の体調に合わせ、気持ちよくゆっくり、ゆったり入浴できるように配慮している。週3回の入浴日を決めて実施しているが、必要に応じてゆとりを持って対応できるようにしていきたいと考えている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の生活歴やできる力を活かした楽しみ事の発見に努め、一人ひとりの能力・希望に合わせて役割分担を行い、楽しみながら過ごしていただくように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	基本的に職員の外出の用事の際には、必ず入居者も一緒にお連れしている。また、個人の希望による買い物(近隣のスーパーや100円ショップ)や近隣のドライブなどで日常的に外出の機会を作っている。また、季節感を感じていただくために毎月行楽地へ行くなど外出の支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は正門・玄関ともに施錠せずに開放している。入居者は職員の見守りのもと自由に出入りできるように支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署または防災設備の設置業者主導のもと、年2回計画を立て消防署の協力のもとマニュアルにそって避難訓練を定期的に行っている。避難訓練は、地域との協力が求められ、運営推進会議などで地域の協力をお願いするなど取り組みが求められる。		災害対策として、夜間など緊急時を想定し、近隣の方々の協力を得ることが求められており、運営推進会議で避難訓練など地域の方の協力を仰ぎ、地域の協力体制を築いていくことが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	必要時は、同法人の老健の管理栄養士に相談しながら、入居者一人ひとりの状態に合わせた食事の工夫を行っている。毎日の食事の量や水分摂取量は職員が記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は家庭的な雰囲気づくりがなされている。施設設備の安全面・衛生面に配慮があり、光や音は入居者が快適に過ごせるように調整し、終日、オルゴール音楽や入居者世代が親しんできた歌を流し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居の際には、できるだけ使い慣れた家具を持ち込んでいただき、自宅での暮らしと同様な環境づくりを支援している。居室はクローゼット・車椅子対応のトイレがあり、入居者の使い慣れた物や仏壇など自由に持ち込まれ、本人らしく快適な居住空間が作りだされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			